

主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・31年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	健康福祉部
	17042	がん検診推進事業	課名	長寿健康課 健康づくりG
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実	財	会計 01:一般会計
	基本施策	02:健康づくり・地域医療の充実	務	款 04:衛生費
	施策の方向	02:疾病予防と早期発見・治療の推進	科	項 01:保健衛生費
戦略プロジェクト	01:「健都さぷり」プロジェクト	目	目 01:保健衛生総務費	
事業予定期間	H 24 ~ H - 年度	主な根拠法令要綱等 健康増進法、がん検診推進事業実施要綱		

② 目的・概要	対象	40歳以上(胃がん・肺がん・大腸がん)、30歳以上の女性(乳がん)、20歳以上の女性(子宮がん)、50歳以上の男性(前立腺がん)・中学3年生(ピロリ菌尿検査)		
	目的	がん検診の受診促進を図るとともに、がん予防に関する知識の普及及びがんの早期発見・早期治療につなげ、市民の健康保持及び増進を図る。		
概要	胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診・乳がん検診・子宮がん検診・前立腺がん検診を個別検診及び集団検診にて実施する。子宮がん検診については、一定年齢の対象者に無料クーポン券等を配布し、受診に必要な検診費用の補助を行う。また、国民健康保険加入者等の対象者に個別通知を行い、受診率の向上を図る。また、中学3年生を対象に、学校健診時のオプションとして、ピロリ菌尿検査を実施し、胃がん予防を図る。			

③ 事業の計画・実績	年度計画	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		<p>○検診: 胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がん (国・無料クーポン) 子宮頸がん</p> <p>○市民への周知啓発 ・広報、ホームページ、ケーブルテレビ、健康づくりのてびき、各種教室での啓発 ・国保加入者、過去2年受診歴のある人、62歳の人、生保対象者、無料クーポン対象者への個別通知 ・団体への啓発</p>	<p>○検診: 胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がん (国・無料クーポン) 子宮頸がん</p> <p>○検査: ピロリ菌尿検査</p> <p>○市民への周知啓発 ・広報、ホームページ、ケーブルテレビ、健康づくりのてびき、各種教室での啓発 ・国保加入者、過去2年受診歴のある人、62歳の人、生保対象者、無料クーポン対象者への個別通知 ・団体への啓発</p>	<p>○検診: 胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がん (国・無料クーポン) 子宮頸がん</p> <p>○検査: ピロリ菌尿検査</p> <p>○市民への周知啓発 ・広報、ホームページ、ケーブルテレビ、健康づくりのてびき、各種教室での啓発 ・国保加入者、過去2年受診歴のある人、62歳の人、生保対象者、無料クーポン対象者への個別通知 ・団体への啓発</p>
年度実績	<p>上記対象者への受診券または、無料券の個人通知 広報掲載5回(うち特集記事1回)、ケーブルテレビ1回、『健康づくりのてびき』の全戸(5月)及び転入者への配布、イベント(2回)や団体を通じた啓発(5団体) がん検診受診率: 胃がん22.0%、大腸がん30.2%、肺がん32.4%、子宮がん12.9%、乳がん22.9%、前立腺がん34.0%</p>			
事業費	計画額	<p>事業費 101,300千円 国庫支出金 100千円 県支出金 地方債 その他 一般財源 101,200千円</p>	<p>102,200千円 100千円</p>	<p>103,300千円 100千円</p>
	予算額	<p>事業費 99,634千円 国庫支出金 109千円 県支出金 地方債 その他 一般財源 99,525千円</p>	<p>101,580千円 468千円</p>	<p>0千円</p>
人件費	決算額	<p>事業費 ① 91,462千円 国庫支出金 468千円 県支出金 地方債 その他 一般財源 90,994千円</p>	<p>0千円</p>	<p>0千円</p>
	<p>総人件費 ② 10,648千円 一般職員 9,829千円 所要人員 1.28 臨時職員等 819千円</p>			
総コスト(①+②)		102,110千円		
受益者負担率		0.0%		

				平成29年度	平成30年度	平成31年度	
④ 指標	①	名称	各組織・団体等への啓発活動	計画値	6	6	6
			広報・ホームページ・CATV等のPR	実績値	6		
				単位	回	回	回
	②	名称	各組織・団体等への啓発活動	計画値	4	4	4
			食生活改善推進協議会などの団体への啓発活動	実績値	6		
				単位	回	回	回
	③	名称	がん検診受診率	計画値	23.7/34.4/32.3	24/34.6/32.8	24.5/34.7/33.2
			胃がん/肺がん/大腸がんの検診受診率	実績値	22.0/32.4/30.2		
				単位	%	%	%

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 『健康づくりのてびき』や集団検診申し込み用の専用はがきの内容の見直しを行い、市民にわかりやすい周知を行う。 また、集団検診の申し込み後、各日程に人数を割り振り、検診日を決定する際に、キャンセルを見込んだ人数も考慮し、各日程の受診者数が定員を割ることがないように調整していく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 前年度の『健康づくりのてびき』で、修正が必要であった事項については、内容について検討し改善した。 集団検診の各日程の受診予定人数については、定員に加えキャンセルを見込んだうえで決定した。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 年度計画どおり検診を実施した。 広報・ホームページ・CATV等のPRは、広報掲載5回(うち特集記事1回)、ケーブルテレビ1回の計6回のほか、『健康づくりのてびき』の全戸(5月)及び転入者への配布、イベント時のがん予防コーナー、団体を通じた啓発5団体を実施した。 食生活改善推進協議会などの団体への啓発活動は、計画の4回より2回多く6回実施した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 がん検診受診率は、昨年度に比較して、子宮がん検診は微増(0.2%増)、他の検診については、同率または、微減(0.2~0.9%)であったが、市民への周知啓発活動を進めたことで、がん予防に関する知識の普及及びがんの早期発見・早期治療につなげ、市民の健康保持及び増進が図られた。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 受診促進のため、計画を立て様々な活動をしているが、受診率の向上につながっていない。がん検診の結果が「要精密検査」であった人の精密検査の受診率が低い。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 市民の健康管理のために、がん検診が活用できるように様々な機会を捉え周知する。 新たに検診を受診した人が、翌年度以降も受診が継続するように、対象者を把握し受診券を個人通知することを継続する。 グループの人員不足から、声かけに手が回らない側面があるが、受けっぱなしにならないように医療機関との連携等を模索する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 上記のような対応を継続することで、向上は図れないまでも現状維持は期待できる。	
対応時期		平成30年度	

【1次評価者】	健康福祉部 長寿健康課 健康づくりグループリーダー 駒谷 みどり
【最終評価者】	健康福祉部 長寿健康課長 小森 達也